経　営　成　績

１．当第１四半期の概況（平成15年4月1日～平成15年6月30日）

当第１四半期における経営環境は、国内では、長引くデフレ経済の影響により、雇用・所得環境に明るさが戻らず、個人消費も低迷が続くなど、依然として低調のまま推移しました。また、海外においては、世界経済の牽引役となる米国経済や、欧州諸国の景気に力強さがみられず、また、アジア諸国でもＳＡＲＳの影響により景気が停滞するなど、回復力に乏しい状況となりました。

こうした中、当社では、液晶カラーテレビやカメラ付き携帯電話、除菌イオン家電など特長商品の販売強化に努めると共に、液晶をはじめＣＣＤ・ＣＭＯＳイメージャ、太陽電池など独自デバイスの売上拡大に取り組みました。また、次世代液晶の柱となるシステム液晶の増産を図るべく、新たに三重第３工場を稼動させるなど、全社あげて積極的な事業活動を推進してまいりました。

連結業績については、売上高は前年同期比7.2％増の5,117億円、営業利益は12.1％増の289億円、経常利益は17.3％増の257億円、当期純利益は13.5％増の140億円となりました。

各部門別の状況は、概ね次のとおりです。

ＡＶ･通信機器部門では、既存のＡＶ商品は低調に終わりましたが、液晶カラーテレビやカメラ付き携帯電話が好調に推移し、売上高は、前年同期に比べ3.9％増の1,892億円となりました。

電化機器部門では、除菌イオン搭載のエアコンや空気清浄機など特長商品の強化に努めましたが、既存商品の低迷により、売上高は、前年同期比2.0％減の576億円となりました。

情報機器部門では、パソコンが低調に推移し、売上高は、前年同期に比べ1.1％減の925億円となりました。

ＩＣ部門では、ＣＣＤ・ＣＭＯＳイメージャやフラッシュメモリ等が好調に推移したことから、売上高は、前年同期を70.9％上回る379億円となりました。

液晶部門では、中小型液晶が好調に推移したことにより、売上高は、前年同期に対し8.8％増の858億円となりました。

その他電子部品等部門では、太陽電池が好調に推移し、売上高は、前年同期比16.4％増の484億円となりました。

２．通期の連結業績見通し

前期決算発表時（平成15年4月25日）に公表いたしました当期業績予想の修正はありません。

【ご参考】

売　上　高	2兆1,500 億円	（前年度比 107.3%）
営 業 利 益	1,100 億円	（前年度比 110.6%）
経 常 利 益	1,000 億円	（前年度比 122.1%）
当期純利益	500 億円	（前年度比 153.4%）

※上記の業績見通しは、当社が現時点で合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- 主要市場（欧米及びアジア・日本）の政治及び経済状況の著しい変化
- 主要市場における製品需給の急激な変動
- 為替相場の大幅な変動（特に、ドル・ユーロ相場）
- 資本市場での相場の大幅な変動
- 急激な技術変化　など